

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	30	—	事業名	社会体育団体補助事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課
------	----	---	-----	------------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	4	文化をみがき、人が輝くまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	4	文化・芸術に親しむ場と機会を充実する	款	9	教育費
		施策の進め方	1	文化芸術環境の発展	項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	—		目	1	社会教育総務費
		政策分類	—		大事業	10	社会体育団体補助事業
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市補助金等交付規則、長久手市社会教育関係団体補助金交付要綱				
事業開始の背景、経緯等		平成9年11月～					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 社会教育団体が社会教育のために行う事業に要する経費に対し、予算の範囲内において交付する。 長久手市文化協会700千円、長久手市小中学校PTA連絡協議会815千円、日本ボーイスカウト愛知連盟長久手第1団50千円、長久手市郷土史研究会200千円					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内の社会教育団体					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民団体の活発な活動を促進する。					
	事業を構成する事務事業	① 文化補助事業	現状維持	④			
		②		⑤			
		③		⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			1,765	1,765
決算						1,765	1,765	
人件費(B)	千円	決算			2,674	1,375		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			4,439	3,140		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 団体会員数	人	目標	5,100	—	5,400	5,500	5,580
実績			—	5,235	5,354	5,402		
B		目標						
		実績						
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 過去の会員増加数平均								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町もほぼ同様に実施
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 団体の活発な活動を行う会員が順調に増加している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 社会教育に関する事業、研究について、さらなる活発な活動を促す必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今後の補助金を交付し、さらなる活発な活動を促していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 今後も団体の会員数が増加していくと思われるため、積極的な活動を促していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		社会体育団体補助事業										
番号	①	事務事業名	文化補助事業		款	9	項	4	目	1	大	10	中	1
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成9年11月～		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市内の社会教育団体に対し、社会教育団体が社会教育のために行う事業に要する経費に対し、予算の範囲内において交付する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市民団体の活発な活動を促進する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			1,765	1,765	1,800
		決算			1,765	1,765	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
審査回数	回	目標	2	2	2	2	2
		実績	2	2	2	2	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

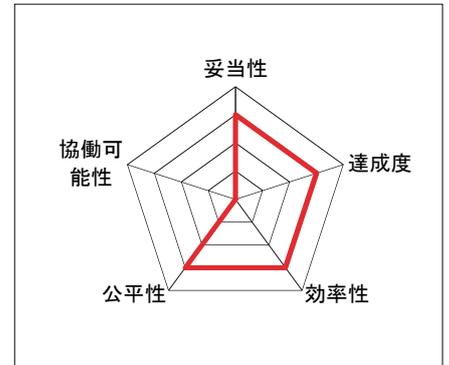
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
会員数の増加、事業の増加のため、補助金を増加する団体がある。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
市内の社会教育団体に対し、適切に補助金を交付していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
補助金を増額した団体があるため、内容を適切に審査し補助金を交付していく。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
—

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
—

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
引き続き、適切に補助金を交付していく。